

第三百九十回 青葉会

平成三十年十月二十五日(木) 午後一時半〜四時半 文京区民センター

〈選者〉

◎ 川口孤舟

〈出席者〉

今井紀久男 大林猛 柿崎忠彦 川口孤舟 久米五郎太 小西弘子 在間千恵

〈投句〉

中野一灯 山内天牛
伊賀山そらお 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 豊田ゆたか 古田昇
宮内規雄 山崎亜也 山田けい子 山内天牛 渡邊盛雄
赤田堅 安部眞希子 庄司龍平 高橋敏郎 早川允章 福島正明 村田くに子
山本三恵

《互選句》

六点

◎ 新蕎麦や蔵王民家の古畳

(◎・灯・「新」と「古」の対比が効いている)

忠彦 (眞・孤・千・龍・灯・正)

五点

能面の照りや曇りや十三夜

孤舟 (堅・紀・忠・五・三)

四点

空稲架(からはぎ)にジーンズ干せり寺領田

一灯 (眞・五・允・正・天)

三点

◎ 目指すべき日々是好日(よきじ) 秋の風
爽やかに若手腕上ぐ舞台かな

忠彦 (眞・五・弘・三)

富士眺めまた富士眺め秋伊豆路

五郎太 (堅・眞・孤・龍)

秋刀魚焼く築地市場は閉ぢにけり

紀久男 (忠・正・く)

大花野空のすくとと抜けてゐる

猛 (眞・千・く)

虫しぐれ中に指揮者のゐるらしく

孤舟 (五・弘・三)

◎ 木守柿ぼつん夕日の忘れもの

全 (紀・猛・弘)

また一枚脱がせては酌む衣被(きぬかっぎ)

全 (忠・千・灯)

天荒れて傷みし古寺の薄紅葉

健介 (紀・正・三)

起こされし間違ひ電話の夜寒哉

恵洲 (猛・孤・天)

顔いつぱい口にし子等の赤い羽根

堂哉 (忠・弘・灯)

酔ひ醒めの我家は遠し十三夜

全 (灯・允・く)

◎ 友去りし秋ぼつねんと宵明星

ゆたか (堅・忠・允)

棹の先悠揚迫らず秋茜(あかむ)

規雄 (猛・天・三)

新月や東海林太郎を口遊(くちうぎ)む

けい子 (弘・龍・く)

子と父と無邪気なダンス運動会

紀久男 (龍・天)

水うましおにぎり美味し秋の山

忠彦 (紀・く)

秋暁やターレの列の連なりて

全 (堅・千)

旅先の友より来たる今年米

千恵 (紀・く)

やや寒や妻の不在の濃さ増して

全 (眞・龍)

◎ 十三夜橋の袂(たもと)のギター弾き

恵洲 (弘・天)

◎ その中に身元不明の木の実落つ

一灯 (孤・允)

一休みしたきベンチに蜻蛉かな

昇 (孤・紀)

ぎんなんや縁起の小分け九品仏

規雄 (灯・正)

秋の空予報士泣かせの斑気(むらぎ)かな

亜也 (龍・三)

鍵穴をのぞく朝日や神の留守

天牛 (猛・忠)

秋空にへりの飛び交ふ基地の町(厚木)

盛雄 (忠・灯)

台風去りゴルフ場の樹木折れしまま

そらお (紀)

諍(いさか)ひを切り上げ妻と十三夜

紀久男 (忠)

雲切れ間伊豆の秋夕陽海を射る

全 (く)

一点

猛 (紀)

- 秋風に身をゆだねたる露店風呂 猛 (堅)
- 秋祭足を上げ下げ御輿行く 五郎太 (猛)
- 葫蘆(ころ) 島を暫し話題に菊日和 全 (紀)
- (満州引揚(ひきあげ)げの不凍港)
- ◎ 松茸は軽き家苞(いえづと) 山の精 弘子 (孤)
- ◎ 鳩吹きて犬の帰りを待ちてをり 全 (孤)
- ◎ ステップにスカート広がる十三夜 全 (孤)
- ◎ 手造りのペーコンの店鴫高音 全 (五)
- ◎ 拾はるる目やにの猫や十三夜 全 (紀)
- ◎ 神の留守坊ちやんに会ひに道後の湯 健介 (孤)
- ◎ 独り身を誘ふ響きや秋祭 千恵 (紀)
- ◎ 駆け抜ける秋のシカゴで日本新 全 (紀)
- ◎ 穂紫蘇しごくや妻の指先黒染めに ゆたか (紀)
- ◎ シャンソンを聞きつ夜長の白ワイン 一灯 (孤)
- ◎ 止り木に燻ゆる葉巻や秋惜しむ 全 (紀)
- ◎ 官軍の難破せし岬(さき) 返り花(房総勝浦) 全 (紀)
- ◎ モナリザに微笑返す美術展 昇 (千)
- ◎ 蠟螂や少しも騒がず構へけり 亜也 (五)
- ◎ 川音のささやく調べ夕花野 けい子 (允)
- ◎ 阿蘇山のすすきの迷路突き進む 全 (孤)
- ◎ 十月や陸続豊洲へターレット 天牛 (紀)
- ◎ 芋虫は脱皮せしものひきずれり 全 (紀)
- ◎ ビオラ弾く吾子無心なり松の芯 盛雄 (紀)

● 次回青葉会

十一月二十二日(木) 午後一時半〜四時半 文京区民センター

▲ 当季雑詠各自五句 投句は二句
十二月五日(木) 忘年句会 午後一時〜五時 鈴木演芸場見物

午後六時句会(築地「紅蘭」) 料理予約の為出席可否連絡ねがいます。 出句・投句は三句まで
正月五日(土) 初芝居総見 浅草公会堂 若手歌舞伎(第一部) 11:00〜14:30
一等席 9,000円 二等席 6,000円
一月二十四日(木) 初句会 午後一時半〜四時半 文京区民センター

以上文責 紀久男

平成三十年十月 青葉会報

一、天牛さんの御要望に応え句会を昼間に移すことにした第一回、いつもの区民センターの一寸狭いんですが会議室。孤舟選者ら9名出席。投句は大阪へ旅の為欠席(97才で亡くなられた注連(しめ)さん偲ぶ会出席の為)のゆたかさんから10名。忘年句会、初芝居見物、来年400回を迎え合同句集上梓の記念企画のことなど話題にし乍ら進行し、御覧のように忠彦さん、一灯さん、五郎太さんが高成績でした。

千恵さん寄贈の純吟「蓬萊」(飛驒高山)、孤舟さんの「鶴齡」(魚沼・塩沢) 小生持参(彦十さんから頂いた)の純吟「加賀鳶」(金沢・福光)、弘子さんからのマドレーヌ(九段南ゴンドラ)、小生の御前崎土産しじみの干物、おかき等を賞味しつつ(一)眞希子さんからのFAX(二)「紅レポート第8号」(三)秀山祭9月歌舞伎座筋書(プログラム)掲載の「初代吉右衛門のこと」稲畑汀子(2頁)(四)大滝さん落語会チラシを回覧。